

## (4) 中村小学校

学 校 長 徳 弘 純 一  
校内研究代表者 伊与田 紗 代

### 1. 研究主題

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり  
—各教科等における見方・考え方を働かせて—

### 2. 主題設定の理由

学習指導要領には、新しい時代に必要となる資質・能力の育成を目指し、資質・能力ベースの授業、主体的・対話的で深い学びの実現、教科等の見方・考え方を働かせる授業が位置付けられている。その具現化に向け、昨年度から、高知県教育委員会「高知の授業の未来を創る」推進プロジェクト実践研究協働校事業として、中村中学校と共に小中学校 9 年間の学びをつなぐ資質・能力を育む授業づくりの実現に向けた研究実践に取り組み、系統性を踏まえた授業づくりができつつある。しかしながら、公開授業や研究授業の成果及び課題をもとに日常の授業改善につなげていくことが課題であり、日常の授業における質的向上を図る必要がある。

令和 3 年度の全国学力・学習状況調査及び高知県学力定着状況調査においては、国語・算数とも全国平均を上回る等、学力向上の取組成果が見られる。しかし、標準学力調査も加えると、5 年理科、2 年国語・算数で全国平均を下回り、評定 1 児童の割合が多い結果となった。学力差や受動的で自分一人でやり切る力に課題のある児童もいるため、個に応じた指導の充実を図るとともに、各種学力調査結果を分析・検証したことを生かした授業改善や学力向上策をさらに、堅実に進めていく必要がある。

以上のような背景及び児童の実態から研究主題を「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり—各教科等における見方・考え方を働かせて—」とした。今年度は標記協働校事業において体育科と理科の授業づくりを進めていくが、昨年度の国語科と算数科については引き続き研究教科とし、校内外の授業研究を通して指導過程や指導方法、発問の工夫、対話的な学びの充実等、教師の指導性を適切に発揮し、児童が教科等の見方・考え方を働かせながら主体的に学習に取り組むことができるよう授業の質を高めていきたい。

### 3. 研究の進め方と方法

#### <研究内容>

- (1) 身に付けさせたい資質・能力の明確化と例えば国語科においては有効な言語活動及び数学的活動及び算数科においては数学的活動の設定等、評価規準・評価方法の明確化
- (2) 各教科等の「見方・考え方」を働かせた学習過程の研究
- (3) 「授業改革ハンドブック」等をもとにした授業の質的改善の研究
- (4) 国語科・算数科で付けたい力と他教科等との関連を図るカリキュラム・マネジメント表の活用

#### <研究方法>

一人年間 2 回以上公開授業を行う。研究授業では西部教育事務所や高知県教育委員会小中学校課等の指導主事等を招聘するとともに、学年や低・中・高学年ブロックを中心に教材研究、学習指導案を作成し、模擬授業や先行授業を行う。他の公開授業については授業構想シートまたは略案を作成する。

#### <研究組織>

- ・研究推進委員会の計画的な実施（原則毎週月曜日）
- ・3 部会「学力向上部会」「仲間づくり部会」「健康・体育づくり部会」の内、本研究に関しては「学力向上部会」が担う。さらに、学力向上部会を「授業力向上チーム」「確かな学力チーム」「学習環境チーム」の 3 チーム編成とし、協働的に研究推進する。

#### 4. 研究の取組

＜授業実践＞「高知の授業の未来を創る」推進プロジェクト実践研究協働校事業 授業研究会

【第6学年】体育科 単元名「心を一つに1・2・3！ソフトバレーボール」（6年1組）

〔育成を目指す資質・能力〕

- ◇運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、その技能を身に付け、簡易化されたゲームをすることができる。
- ◇ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- ◇運動に積極的に取り組み、ルールを守って助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができる。

◆授業研究会 6月14日◆

☆本時の目標☆

チームの特徴に応じた課題を見出し、課題解決のための場を設定したり、選んだりすることができる。

☆本時の言葉による見方・考え方を働かせている姿☆

チームの特徴を確認し、課題解決に向け思考・表現している。



慣れの運動



チームの課題解決に向けた話し合い



課題解決に向けた練習の場



ゲームを実践する場

【第5学年】理科 単元名「科学的に解き明かそう！もののとけ方」（5年2組）

〔育成を目指す資質・能力〕

- ◇次のことを理解するとともに、観察・実験などに関する技能を身に付けることができる。
  - (ア) 物が水に溶けても水と物とを合わせた重さは変わらないこと
  - (イ) 物が水に溶ける量には限度があること
  - (ウ) 物が水に溶ける量は水の温度や量、溶ける物によって違うこと、また、この性質を利用して溶けているものを取り出すことができる
- ◇物の溶け方の規則性についての予想や仮説をもとに、解決の方法を発想し、表現することができる。
- ◇物の溶け方についての事物・現象に進んで関わり、他者と関わりながら粘り強く問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとすることができる。

◆授業研究会 10月27日◆

☆本時の目標☆

水の量を増やしたり水溶液の温度を上げたりした時の物が水に溶ける量を調べる実験を通して、複数の実験から得られた結果をもとに考察し、他者と関わり合いながら問題解決することができる。

☆本時の言葉による見方・考え方を働かせている姿☆

物が水に溶ける量に着目して、水の温度や量といった条件を制御しながら計画的に実験を行い、複数の実験から得られた結果をもとに考察している。



自分たちで立案した方法で実験



実験結果を考察



実験結果の共有



(校内研究授業)

6月 1日	国語科	4年2組	家族に伝えよう！学校での出来事！
6月29日	国語科	1年2組	こんなことがあったよ 6ねんせいにおしらせしよう
7月 6日	国語科	6年2組	説得の工夫を使って読み手を納得させよう！
9月28日	算数科	4年1組	倍の見方
10月19日	算数科	1年1組	たしざん
11月 2日	算数科	3年2組	まるい形を調べよう
11月30日	算数科	2年2組	九九をつくらう(かけ算2)
12月 7日	国語科	3年1組	やってみたいな！この遊び！
1月20日	算数科	5年1組	多角形と円をくわしく調べよう
2月15日	国語科	2年1組	しょうかいます！〇〇先生のひみつ！

## 5. 今年度の成果と課題

- 小中9年間の系統性を踏まえた授業づくりを進めることで、小学校で身に付けさせたい力の明確化につながった。また、中村小学校・中村中学校で互いに学習指導案検討会に参加し合ったり、小学校の研究授業を中学校の先生方にも参観していただき協議をする中で、双方の授業研究力が交流され、小中の繋がりを意識した研究を進めていくことができた。
- 児童の実態を踏まえ関心・意欲を引き出す課題の設定と導入・展開の工夫をすることで、児童が主体的に学ぶ姿が見られ、授業研究を通して授業改善・学力向上への意識の広がりや学習指導要領の趣旨や内容の深まりがみられるようになってきた。
- 体育科及び理科を研究教科に加えた今年度の協働校事業における研究授業を通して、子ども自らが課題や問題を見出し、解決していくことが主体的で対話的な学びにつながり、子どもの思考に沿った学習過程となるよう単元及び授業構想をしていくことが重要であると学ぶことができた。
- 学習指導要領解説を読み解くとともに、先進的で示唆に富む講師招聘を行いながら資質・能力、見方・考え方の捉え方を教員間で共有し研究を進めていく必要がある。
- 対話的な学びの場面を意図的・効果的に取り入れることや児童が学びの自覚ができる学習過程の工夫、振り返りの内容やさせ方などの充実を図る。
- 研究授業からの学びを通して日常の授業の改善を図っていくことを効果的なICTの活用と合わせてさらに考え進めていく必要がある。
- カリキュラム・マネジメント表を活用して、国語科及び算数科を中心に、他教科等と共通する内容同士を関連づけて、意図的・計画的かつ効率的に資質・能力を身に付けていくことが必要である。